

## 第4回長期計画策定会議後提出の意見メモまとめ

H21.6.3

「施策24 保健・医療施策の充実」について		
番号	意見・質問	委員氏名
1	<p>第4回会議の私の発言の中で”聖路加病院が中央区民のみ使える産科を作る”という内容を話しましたが、正確には、区民が優先される産科のようです。以下、日経の記事の抜粋です。</p> <p>-----</p> <p>東京・中央区と聖路加病院、産科診療所を新設 区内の妊婦優先</p> <p>東京都中央区と聖路加国際病院(東京・中央、日野原重明理事長)は5日、区周辺の妊婦を中心に受け入れる産科診療所を新設すると発表した。ベッド数は19床で、2010年6月の開業後は年間500件の出産を扱う見込み。聖路加病院が運営し、区は約12億円に上る整備費の1割を負担する。区内の出生数は増加傾向が続いており、産科医療の充実を急ぐべきだとの認識で両者が一致した。</p> <p>中央区明石町にある聖路加病院の施設跡に7階建ての診療所(延べ床面積1700平方メートル)を建設する。19床はすべて個室とし、医師3人、助産師45人を配置する。緊急時には聖路加病院の産婦人科、小児科などがサポートする態勢を整える。</p> <p>出産にかかる標準的な費用は約60万円。一般の人の利用を促すため、聖路加病院本院に比べて約30万円安い料金設定とする。入院受け入れに際しては区内に住んでいた、実家を持っていたりする妊婦をできるだけ優先したい考えた。</p>	浅見委員
「施策28 都市基盤整備に向けた計画づくりと景観形成」について		
番号	意見・質問	委員氏名
2	<p>景観形成に関して、すでに運河など水辺を生かした「水彩都市」のための計画づくりをすべきだと皆さんの意見が一致していますが、それに関する具体的な内容が乏しいように思えます。</p> <p>例えば、親水性をもった公園や遊歩道がどれくらいの距離あるとか、運河に背を向けずに建てた建物がどれほどあるとか、護岸の改修によって水辺を生かす計画の件数などがあげられるのではないのでしょうか。</p>	大内委員

## 第4回長期計画策定会議後提出の意見メモまとめ

「施策29 住みよい住宅・住環境の形成」について		
番号	意見・質問	委員氏名
3	<p>住みよい住宅・住環境に関して、「ライフスタイルやライフステージに即して住み続けられる」といった視点は非常に重要ですが、現実には単身世代、家族世代、高齢世代とそれぞれのライフステージによって居住の場を移動せざるを得ないのが日本の現実です。それは、集合住宅における住宅プランに多様性がないからです。</p> <p>例えば、かつての同潤会アパートには一人用から三世代用まで、様々な住宅プランが用意されていたために、同じアパート内でライフステージに合わせて移り住む人もいました。顔見知りの友達も一緒に良いですね。ところが、現代の集合住宅は(公共、民間を問わず)同じようなプランに同じような構成の居住者が入居するために、建物とともに世帯も老化してしまうのです。経済的余裕のある人から出て行ってしまいます。</p> <p>そこで、まったく同じ集合住宅である必要はないのですが、近隣も含めて世代やライフステージを越えて同じ地域に住み続ける人たちの割合がどれくらいになるか、といった統計がとれれば「住みよいか、住みよくない」かの指標になると思うのですが。一部のマンション業者は、そうしたマーケットの拡大に目をつけた住宅プランを考えています。</p> <p>コンバージョンの問題もそうです。これから、オフィス、倉庫などを住宅に用途変更するなどといった、大胆なコンバージョンが東京でも増えると思います。集合住宅を改造して、ユニットを大きくしたり小さくしたりする例も出てきます。そうした事例を指標として上げられれば興味深いのですが。</p> <p>別の視点からの「住みよさ」ですが、歩いてゆける範囲に「住む、働く、遊ぶ」といった生活圏が整っているか、といった関心も必要に思います。医療・福祉などの社会サービスも含めて、コンパクトな生活圏をどう都会のなかで構築するかも重要です。</p>	大内委員
「施策30 ユニバーサルデザインのまちづくり」について		
番号	意見・質問	委員氏名
4	<p>ユニバーサルデザインに関してですが、様々な種類のハンディキャップ相互の連携が必ずしもうまく取れていません。目の不自由な方、耳の不自由な方、体の不自由な方など、それぞれの事情に合わせて整備した施策が、総合的に優れたものになるとは限りません。区として、そうした連携を取るための仕組みをつくと表明してはどうでしょうか。</p> <p>アシストなしで、障害者が単独で行動できる範囲がどれほどあるか、といった指標が取れると、より高度にユニバーサルデザインを実現できることにならないでしょうか。</p>	大内委員
「施策31 便利で快適な道路・交通網の整備」について		
番号	意見・質問	委員氏名
5	<p>何度も申し上げて恐縮ですが、自転車を悪者扱いする時代ではありません。苦情処理をはじめ、行政の現場では大変な対応をせまられていることは十分に承知していますが。</p> <p>自転車をどのように有効に活用しているかを探るような指標がとれると、積極的な計画づくりへの材料となるはずで、自転車の所帯あたりの保有数ほか、活用目的など。</p>	大内委員

## 第4回長期計画策定会議後提出の意見メモまとめ

「施策32 災害に強い都市の形成」について		
番号	意見・質問	委員氏名
6	<p>災害に関しては、地震と火災が同時に発生した場合の高層住宅は危機的だと心配しています。複合的被災の問題です。建物が地震で被災したときに高層建築物で火災が発生すると、消化のための水が供給され、消防がはしご車で救援できる可能性は全くありません。</p> <p>どういった指標をとるべきか分かりませんが、問題点の指摘のみしておきます。</p>	大内委員
「施策33 地域防災力の強化」について		
番号	意見・質問	委員氏名
7	<p>施策26の地域福祉の充実と少し重なる面もあるのですが、防災という事であえて、こちらの施策にて意見を出すことにしました。</p> <p>P75&lt; 施策実現に関する指標 &gt;に、江東社会福祉協議会・江東ボランティアセンターにおいて数年前から実施されている「災害ボランティア講習会」という事業の参加者を加えてはいかがでしょうか？</p> <p>災害ボランティア講習会の内容としては、災害時のボランティアセンターの運営を想定した活動の方法、実務的なボランティアの知識などの講習で、高齢者を中心にした熱心な参加者が多く、これは防災意識の強い区民の方々の指標としても相応しいのではないかと思います。ちなみに、参加者数は、平成19年が32人、平成20年が64人となっているとのことです。</p> <p>また、P76の または の取組み例に、数年前から、防災課のご協力のもと、やさしいまちづくり推進課で実施されました小学校等における“避難所体験”も加えてはいかがでしょうか？</p> <p>今まで、小名木川小学校、大島南央小学校、水神小学校などで行われ、学校と地域住民など一緒に避難所運営、防災の知識などを学んだ、とても素晴らしい取組みだったと思います。</p>	日向委員